

産業組合中央會館建築工事

産業組合中央會
臨時建築部主任技師 田 中 秀 夫

非常時局中の建築工事難時代を押切つて、産業組合中央會館の新築工事は無事竣工して、丸ノ内の南部に其偉容を現した。時局の影響をうけて各工事関係者の犠牲的努力は多大のものであつたと思はれる。設計上の特色と俱に此等施工上の特性も参考とすべきである。(編者)

位 置	東京市麹町區有樂町一丁目十 一番地	樣 式	近世式
敷 地 面 積	410.246坪(1,356.18平方米)	構 造	鐵骨鐵筋コンクリート造、耐 震耐火構造(基礎は地下70尺第三紀層に深 礎工法による礎柱を築造す)
建 物 面 積	336.649坪(1,112.89)	外 部 仕 上	南及西側壁は地上より2階窓 臺迄花崗石貼(正面中央玄関廻り彫刻入) 其他は「タイル」貼扶壁上部及塔屋頭部は 「テラコッタ」貼仕上とす
建 物 延 面 積	2,828.375坪(9,350.00)	窓及出入口金物	外部窓は「スチールサッシ ユ・エアタイト」上げ下げ式とし、「ペイン ト」塗仕上とす、玄関各出入口扉は「プロ
建 物 階 數	地上7階、地下2階、外に塔屋		
建 物 高 サ	地上正面扶壁上端迄28米10 塔屋扶壁上端迄35米55		
設 計 要 旨	全國15,000餘の産業組合の中 央機關としての事務所たるの他講堂及産業 組合學校を併置す		

1. 南正立面圖。

